

あいち病害虫情報 最新情報

平成25年7月16日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

盛夏到来！熱中症に注意！！

気象庁によると東海地方は、7月8日頃に梅雨明けしました（平年は7月21日）。7月12日発表の1か月予報によれば、向こう1ヶ月は平年より晴れる日が多い見込みとなっています。ほ場での病害虫の発生状況をよく観察し、天候を考慮に入れて、的確な防除を心がけましょう。また、気温については、平年より高い確率が50%となっています。暑さの厳しい時期なので、農薬の散布に際しては、朝夕の涼しい時間帯を選んで作業するなど、健康管理にも留意しましょう。

イネの病害虫

葉いもちは、7月上旬の巡回調査において一部のほ場で確認しましたが、全体的に少ない発生量です。平年より早く梅雨明けし、暑い日が続いているため、穂いもちの発生は少ないと予測します。いもち病の発生状況については、本日発表の「いもち病（葉いもち）情報第3号」を参考にしてください。

斑点米カメムシ類の7月上旬の発生状況は、すくい取り頭数（捕虫網20回振り）で、水田内では、106地点調査で平均1.2頭／ほ場（平年0.7頭／ほ場）、畦畔雑草では、86地点調査で平均19.9頭／ほ場（平年10.5頭／ほ場）と多い状況が続いていますので、穂ぞろい期の防除を心がけましょう。防除については、7月2日発表の「平成25年度病害虫発生予察注意報第2号」を参照してください。

セジロウンカは、7月上旬の巡回調査において県内全域で発生を確認しましたが、発生量は平年並です。トビイロウンカは、予察灯で6月下旬に誘殺されましたが、7月上旬の巡回調査では生息を認めませんでした。発生状況については、本日発表の「ウンカ情報第2号」を参照してください。

フタオビコヤガ（イネアオムシ）の発生量がやや多めです。今後、晴天が続くとさらに増加しますので、被害が拡大する前に防除しましょう。

イチモンジセセリ（イネツトムシ）は、6月下旬の発生量がやや多かったため、第2世代の発生量もやや多いと予測します。第2世代幼虫の発生盛期は7月下旬ですので、葉色の濃いほ場や移植時期の遅かったほ場では、特に注意してください。

果樹の病害虫

モモ灰星病の発病果を見つけたら、直ちにほ場から持ち出して適切に処理しましょう。

ナシ黒星病の発生ほ場では、伝染源となる発病葉や発病果を除去して適切に処分するとともに、耐性菌の発生を避けるため、同一系統薬剤の連用を控え、異なる系統の農薬をローテーション散布しましょう。

ナシヒメシンクイのフェロモントラップにおける誘殺数及び誘殺ピーク時期は、おおむね平年並で推移しています。7月以降は、果実に侵入する重要な時期になります。成虫の発生ピークから6日後頃が防除適期になるので、フェロモントラップの誘殺状況を参考に、適期防除を心がけましょう。また、コンフューザーを設置しているほ場で、7月以降に再度設置する予定がない場合は、収穫期間中に効果が低減し、ナシヒメシンクイなどによる被害が出る可能性があります。今後の発生動向に十分注意し、適期防除を心がけましょう。

チャノキイロアザミウマ

チャノキイロアザミウマの第4世代成虫の発生ピークは、名古屋市7月22日、蒲郡市、伊良湖7月25日、愛西市、南知多町、豊橋市7月26日、豊田市7月27日、岡崎市7月28日、

新城市7月30日と予測されます。また、稲武町では第3世代成虫の発生ピークが7月29日と予測されます。成虫の発生ピークは、7月2日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第3号」における予測日と同じか1～2日早くなっています。今回発表の発生ピーク予測日を目安にして、ほ場を観察し適期防除に努めましょう。ブドウ、カキ及びウンシュウミカンの防除薬剤については、「チャノキイロアザミウマ情報第3号」を参照してください。

トマト苗へのタバココナジラミの寄生に注意！

トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介するタバココナジラミが露地で活発に活動する時期です。トマト栽培が周年化している産地では、育苗時におけるTYLCVの感染防止が特に重要です。タバココナジラミに効果のある粒剤を施用するとともに、侵入防止対策として、育苗施設の施設開口部に防虫ネット（目合い0.4mm以下）を設置しましょう。

オオタバコガ

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、長久手市では平年並ですが、豊橋市、豊川市、稲沢市の3地点では、6月中旬以降、平年より多く推移しています。ほ場での発生状況に注意し、早期発見、早期防除に努めましょう。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台7月12日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

週別の気温は、1週目は、高い確率50%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）〉

〔気温〕 低い：10% 平年並：40% 高い：50%

〔降水量〕 少ない：40% 平年並：40% 多い：20%

〔日照時間〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%

○農薬危害防止運動実施中（6月1日から8月31日まで）

今年度の重点事項は次の3つです。

1 農薬ラベルの十分な確認

2 農薬の飛散防止

3 農薬の盗難・紛失等の防止

○ 農薬を使用する前に、ラベルの内容をよく確認し、使用方法を守りましょう。

○ 農薬の飛散防止に努めましょう。

○ 農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。

○ 暑い時期です。作業中に熱中症にならないよう注意しましょう。

問い合わせ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-62-0085 FAX 0561-63-7820